

「アジア共同学位開発プロジェクト」発足記念シンポジウム基調講演

# アジア型エラスムス・ムントゥスの可能性

東北大学大学院教育学研究科  
2011年7月16日(土) 13:00-14:00

二宮 皓  
放送大学理事・副学長  
animiya@ouj.ac.jp

# 主題「アジア型エラスムス・ムンドゥスの可能性」の意味？

- **アジア版エラスムス計画**
  - 日中韓を基軸とするアジア版エラスムス計画
  - ASEANにおけるアジア版エラスムス計画
  - 東アジア共同体エラスムス計画(ASEAN+3)
- **アジア版(型)エラスムス・ムンドゥス計画**
  - 日中韓+ASEAN
  - 日中韓+欧米等
  - 日中韓+ASEAN+欧米等
  - アジア版エラスムス+欧州エラスムス
    - ASEMの枠組み

# ＜内容構成＞

## A. なぜアジアにおける国際的な大学間交流・連携か

- ① 『アジア・ゲートウェイ構想』(平成19年)
- ② 『留学生30万人計画』(平成20年)
- ③ 『新成長戦略』(平成22年6月18日閣議決定)

## B. アジア版エラスムス構想と『キャンパス・アジア』(世界展開力強化事業)

- ① 大学の世界展開力の強化による留学生交流の促進
- ② 国際的に活躍するグローバル人材を育成
- ③ 日中韓大学間交流・連携推進会議と「キャンパス・アジア」
- ④ 日中韓における質の保証を伴った大学間交流・連携のガイドライン  
(日中韓大学間交流・連携推進会議合意、平成22年12月)

## C. 国際的な大学間交流・連携モデル

- ① [国境を越える教育サービス]三世代論 (Jane Knight)
- ② 多元的な国際的な大学間交流・連携の分類軸 (二宮)
- ③ <参考> アジアにおける国際的な大学間連携・ネットワーク
- ④ Non-degreeプログラム・Degreeプログラム
- ⑤ ジョイントディグリー開発の経験
- ⑥ Erasmus Mundus Master Journalism and Media within Globalisationプログラム (2005～) 事例
- ⑦ European Teacher Education for Primary Schoolsプログラムの事例
- ⑧ <参考> 中国の事例

## D. 質の保証と国際的な大学間交流・連携プログラムにおける課題—ジョイント／ダブル学位プログラム—

- ① ジョイント／ダブル・ディグリーの課題 (欧州の動向)
- ② アジアにおける学年暦の調整
- ③ アジアにおける単位互換スキーム

## まとめ

# A なぜアジアにおける国際的 大学間交流・連携か

『アジア・ゲートウェイ構想』(平成19年、戦略会議)(10の戦略)  
(開放的の魅力ある日本を創る、アジアを創る、共生を創る)

- アジア高度人材ネットワークのハブを目指した留学生政策の再構築(新たな留学生政策策定への基本方針の提示)
  - 受入れシェアの確保(世界の5%程度)
  - 産学連携の推進
  - 海外現地機能の強化
- 世界に開かれた大学づくり
  - 国際化の評価の充実など(競争的資金と環境醸成)

# 『留学生30万人計画』(平成20年度)(世界に開かれた国づくり、優秀な留学生の確保と知的国際貢献)

- 大学等のグローバル化の推進
  - 国際化拠点整備事業(グローバル30)(平成21年度)
  - 日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業(平成22年度)
  - 高等教育における質保障に関する国際会議等の開催(平成22年度)
    - 日中韓大学間交流・連携推進会議(キャンパス・アジア構想)
    - アジアにおける大学の質保障を考える国際シンポジウム(平成23年9月開催予定)
  - 奨学金事業の改善による国際化への対応(短期留学と長期派遣)(平成21年度)

# 『産学官でグローバル人材の育成を』 (経済産業省・グローバル人材育成委員会、平成22年)

## 背景

- 世界市場で存在感を失いつつある日本企業
- 「内向き」な日本の若者
- 更なるグローバル化が必要な日本の大学
- 海外展開の最大の課題は「人材」

## グローバル人材とは

- 共通に求められる能力・資質
  - 「社会人基礎力」(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)(経産省提唱の人材育成論)
  - 外国語によるコミュニケーション能力
  - 異文化理解・活用力(異文化の差の認識と行動。柔軟な対応能力。多様な人々の強みを認識し、それらを引出して相乗効果によって新しい価値を生み出す力)

## 産学官でのグローバル人材の育成(日本社会が抱える課題・大学で対応すべき課題)

- 若い世代から海外で学習・就労できる社会システム(一種の“Gap Year”制度)
- 海外からの人材受け入れとそれに伴う国内での切磋琢磨できる社会のシステム
- 大学の具体的なプログラム
  - PBL
  - 海外サービ斯拉ーニング
  - 海外ペイドインターンシップ(コーププログラム)
- 企業のキャリアパスのグローバル化「(国内組v海外組)からの脱却」



# 『グローバル人材育成推進会議中間報告』(平成23年6月22日) (座長:枝野官房長官)

- **グローバル人材像(概念)**
  - 要素I: 語学力・コミュニケーション
  - 要素II: 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
  - 要素III: 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ
- **政策課題(関連部分のみ抜粋)**
  - 同年齢世代の10%(11万人)が20歳代前半までに1年間以上の海外留学・在外経験をもつ
  - その内、大学生8万人規模
  - 国際化推進に特色ある大学を重点化
  - 国別・地域別の留学生戦略の明確化
- **国家戦略担当・外務・文科・厚生・経産の各大臣がメンバー**

# 『新成長戦略』(平成22年6月18日閣議決定)抜粋(文科省資料(公開済)の部分転載)

## (3) アジア経済戦略～「架け橋国家」として成長する国・日本～

(アジア市場一体化のための国内改革、日本と世界とのヒト・モノ・カネの流れ倍増)

日本国内においても、アジアを中心に世界とのヒト・モノ・カネの流れの障壁をできるだけ除去することが必要である。ヒト・モノ・カネの日本への流れを倍増させることを目標とし、例えば、その流れの阻害要因となっている規制を大胆に見直すなど、日本としても重点的な国内改革も積極的に進める。(中略)外国人留学生の受入れ拡大、研究者や専門性を必要とする職種の海外人材が働きやすい国内体制の整備を行うほか、貿易関連手続の一層の円滑化を図るとともに、海外進出した企業が現地であげた収益を国内に戻しやすくする。加えて、金融や運輸等のサービス分野の国際競争力を強化し、その流れの円滑化を図る。さらには、アジアや世界との大学・科学技術・文化・スポーツ・青少年等の交流・協力を促進しつつ、国際的に活躍できる人材の育成を進める。

## 《21世紀の日本の復活に向けた21の国家戦略プロジェクト》

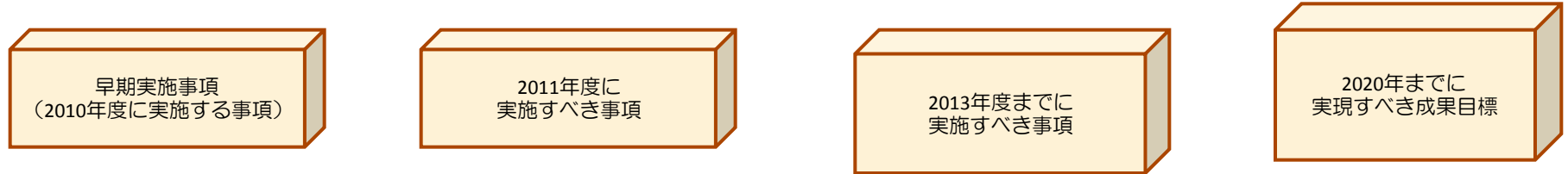
### 8. グローバル人材の育成と高度人材等の受入れ拡大

我が国の教育機関・企業を、積極的に海外との交流を求め、又は国内のグローバル化に対応する人材を生み出す場とするため、外国語教育や外国人学生・日本人学生の垣根を越えた協働教育をはじめとする高等教育の国際化を支援するほか、外国大学との単位相互認定の拡大や、外国人教職員・外国人学生の戦略的受入れの促進、外国人学生の日系企業への就職支援等を進める。一方、日本人学生等の留学・研修への支援等海外経験を増やすための取組についても強化する。

(中略)これらの施策を通じ、海外人材の我が国における集積を拡大することにより、在留高度外国人材の倍増を目指す。また、我が国から海外への日本人学生等の留学・研修等の交流を30万人、質の高い外国人学生の受入れを30万人にすることを目指す。あわせて、海外の現地人材の育成も官民が協力して進める。

# 『新成長戦略』(平成22年6月18日閣議決定)抜粋(続き)

## ＜成長戦略実行計画(工程表)＞



## ＜世界と日本を支える人材を生み出す高等教育＞

- ・大学教育のグローバル化と英語・中国語等の外国語教育の強化
- ・日本人学生等の海外交流促進と外国人学生の戦略的獲得
- ・国際化対応ビジネス人材の育成

- ・大学の外国語教育・国際化の取組への支援と拠点形成、外国大学との大学間交流や相互単位認定の拡大
- ・大学生・高校生の海外交流支援の強化、外国人教職員・学生の戦略的受入れの促進
- ・TOEFL/TOEICの大学・企業での活用、外国人学生の日系企業就職支援、企業等におけるグローバル人材の育成・登用の強化

大学の各機能に応じた適切な評価基準・指標の検討開始

- ・大学の情報公開・評価制度の強化と各種資金配分への反映
- ・大学のマネジメント強化、カリキュラム改革、経営改善

大学教育の質の向上と機能分化

- ・評価への地域・産業界等の視点追加
- ・教育・研究実績等の情報を一覧できる仕組みの導入

世界の大学ランキングでの上位校の増加

質の高い外国人学生30万人の受入れ

日本人学生等30万人の海外交流

日本企業のマネジメント層の国際経験を、東アジアトップレベルに引き上げ

# B アジア版エラスムス構想と『キャンパス・アジア』(世界展開力強化事業)

# 大学の世界展開力の強化による留学生交流の促進(文科省資料(公開済)転載)

- 日中韓を中心とした東アジア地域の大学が目指すべき姿として、質の保証を伴った大学間交流による知的人材循環を促進し、東アジア共同体の形成や文化多様性の興隆に貢献
- 留学生の受入れ促進に加え、交流を重視した双方向型留学生交流を強化

## 現状・課題

- ◎日本人の内向き志向が指摘
- ◎大学キャンパスが「世界のるつぼ化」し、文化の多様性が反映される状況が生まれない
- ◎「受入れ中心」、「キャッチアップ型」の留学生政策の抜本的強化が必要

## 今後の方向性

### ■国際交流を積極的に取り組む大学を支援

- ・質保証を伴う交流に取り組む大学への重点的支援

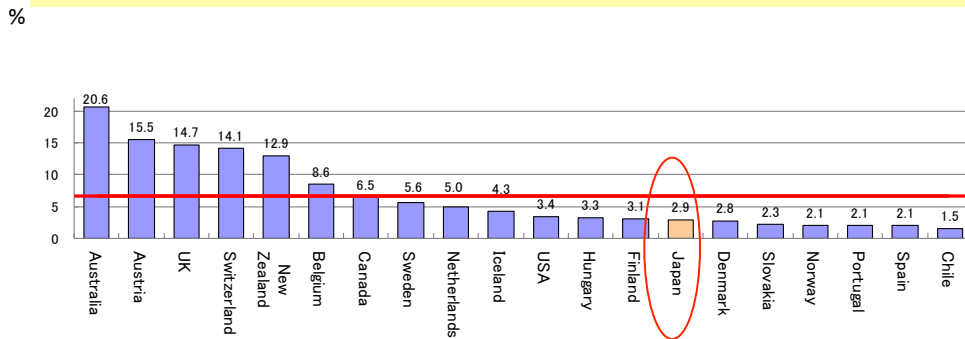
### ■国際的な質の保証を伴う大学間交流の枠組の策定

- ・学位プログラムの可視化・体系化等による交流のスタンダード主導

### ■交流を重視した双方向型留学生政策の強化

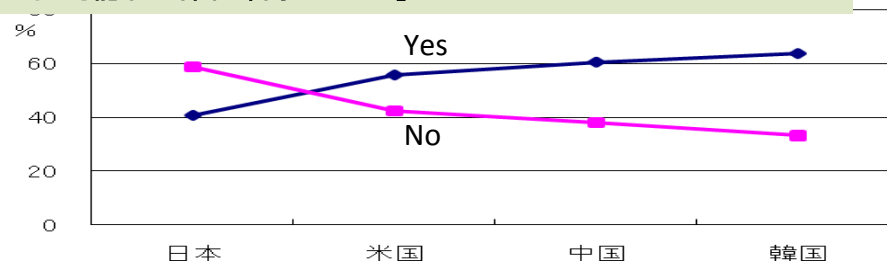
- ・短期交流等への支援拡大、日本のソフトパワー(cool Japan)を活用した文化多様性促進に貢献する交流、日本人学生の英語力向上や海外留学へのインセンティブ付与

学士・修士課程において留学生が占める割合は、OECD平均は6.7%、EU19カ国平均は5.9%であるのに対して、日本は2.9%にとどまる。



出典: OECD "Education at a Glance" 2010

### 「もし可能なら外国へ留学したいか」

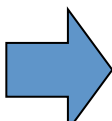


「中学生・高校生の生活と意識－日本・アメリカ・中国・韓国の比較」(日本青少年研究所, 2009年2月)

### 【日中韓サミット(H21.10.10)での日本提案】

■ 質の保証を伴った相互交流の促進のための日中韓による有識者会議の設置

■ アジアにおける大学の質保証を考える国際会議の共同開催



Akira NODA

○ 平成22年4月16日に、第1回日中韓大学間交流・連携推進会議を開催し、構想名称を「CAMPUS Asia」(キャンパス・アジア)とすること、当面審議を進めるためのワーキンググループの設置、第2回会議を中国、第3回会議を韓国で開催すること等につき合意

○ 質保証機関においても、日中韓質保証機関協議会が平成22年3月に発足

# 国際的に活躍するグローバル人材を育成(文部科学省資料転載)

## 大学の世界展開力強化事業

23年度予算案:22億円(新規)

### A「キャンパス・アジア」中核拠点の形成支援

10件×84,200千円(新規)、6件×79,000千円(継続)  
※継続は、旧日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業による選定分。

#### ○ 「キャンパス・アジア」構想の推進による東アジア共同体の中核となる拠点の形成

▶日中韓政府が策定するガイドラインに沿って、単位相互認定や成績管理、学位授与等を共通の枠組みで行う協働教育プログラムの実施

### B米国大学等との協働教育創成支援

#### ○ 新たな学びのスタイルによる協働教育の開発

10件×84,200千円

▶米国大学等と協働での教養教育の共通基盤の育成  
▶e-learning等の活用による協働の専門教育の開発  
▶ダブル・ディグリープログラムの拡充 等

双方向交流をさらに推進

## 学生の双方向交流の推進

新設

23年度予算案:22億円(新規)

### ショートビジット・ショートステイ用交流経費

長期(1年以上)、短期(3ヶ月~1年)に加え、新たに3ヶ月未満の「ショートビジット」「ショートステイ」学生に交流経費を給付。(対象/派遣:7,000人、受入れ:7,000人)

国際化拠点整備事業を組み立て直し

## 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業

(22年度:30億円)  
23年度予算案:29億円  
13件 221,600千円

強化

産業界との連携、拠点大学間のネットワーク化を通じ、拠点大学の資源と成果を共有化

- ✓英語で学位取得可能なコースの整備
- ✓海外共同利用事務所を通じたワンストップの対応
- ✓産業界との連携、拠点大学間のネットワーク化による資源と成果の共有化

# 日中韓大学間交流・連携推進会議と「キャンパス・アジア」(文科省資料(公開済)転載)

## 日中韓大学間交流・連携推進会議の開催

- 第2回日中韓サミット(平成21年10月)における合意を受け、平成22年4月16日に東京で第1回日中韓大学間交流・連携推進会議が開催。各国の政府、大学、質保証機関、産業界等から成る有識者委員により、以下の事項につき合意。
  - ・ **日中韓の大学間交流の構想名称を「CAMPUS Asia」\* (キャンパス・アジア)とする。(\*Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia)**
  - ・ **「大学間交流プログラム・ワーキンググループ」及び「質保証ワーキンググループ」を設置し、専門的な議論を深める。上記ワーキンググループでは、当面、交流のためのガイドラインや、具体的なパイロットプログラム等を議論。(平成22年8月に第1回会合を開催)**
- 平成22年12月10日に中国・北京で開催された第2回会議では、大学間交流を促進するための単位互換や成績評価等に関する**3か国間のガイドラインについて大筋合意**するとともに、パイロットプログラムを平成23年の早期に開始できるよう準備を進めることで合意。
- パイロットプログラムの実施に対応して、平成23年度予算案において、大学の世界展開力強化事業・「キャンパス・アジア」中核拠点支援を開始予定。

### <審議内容>

- ・大学間における交流プログラムや質保証に関する共通理解
- ・成績管理や単位認定、学位授与等の教育の質の保証に関する事柄を大学間交流のためのガイドラインとしてとりまとめ
- ・パイロットプログラムの早期実施とその支援方策
- ・大学評価の共同指標、質保証に関する共通用語集の発行、各国の大学評価に関する情報の共有化、評価活動の相互参加

### <委員>

#### 【日本】

- **安西 祐一郎** 中央教育審議会大学分科会長、慶應義塾学事顧問
- 中鉢 良治 ソニー株式会社副会長
- 寺島 実郎 財団法人日本総合研究所理事長、多摩大学学長
- 濱田 純一 東京大学総長
- 平野 眞一 独立行政法人大学評価・学位授与機構長
- 磯田 文雄 文部科学省高等教育局長

#### 【中国】

- **呉 博達** 中国教育部学位・大学院生教育発展センター主任
- 季 平 中国教育部高等教育教学評価センター主任
- 楊 河 北京大学学長代理(副学長)
- 張 兆東 中国北大方正グループ株式会社総裁
- 張 秀琴 中国教育部国際協力交流司司長
- 劉 桔 中国教育部高等教育司副司長

#### 【韓国】

- **ソン・テジェ** 大学教育協議会事務総長
- ユン・ジョンヨン** サムソン電子顧問
- イ・ヒョンチョン** 祥明大学総長
- キム・インセ** 釜山国立大学総長
- キム・テウオン** 韓国教育開発院長
- ソン・キドン** 教育科学技術部国際協力局長

- : 共同議長

# 『キャンパス・アジア』の二つの事業

## ◆ タイプA キャンパス・アジア中核拠点支援

### ◆ A-I 日中韓トライアングル交流プログラム

- 日中韓大学間交流・連携推進会議の「**日中韓における質の保証を伴った大学間交流・連携ガイドライン**」に沿って、コンソーシアムを形成する大学との単位の相互認定や成績管理、学位授与等を統一的に実施できるような交流プログラム
- 将来的にコンソーシアム内外の協働教育の充実・発展につながるような質の高いものとし、将来グローバルに活躍できる人材像とそれに基づくプログラムの設定や提供を行うもの

### ◆ A-II アジアにおける双方向の交流プログラム

- 中国、韓国、ASEAN諸国との交流事業を対象とし、その場合においても**本ガイドライン**を考慮した交流プログラムとすることが望ましい

## ◆ タイプB 米国大学等との協働教育創成支援

- 米国等の大学等との間で、単位の相互認定や成績管理、学位授与を実施する質の高い協働教育プログラム
- 大学の教育理念・目的、個性・特色を活かしつつ協働教育の意義や方向性を明確化した取組
- 将来的に我が国の大学の教育研究活動の発展や国際競争力の強化につながるような先導的な新たな学びのスタイルによる協働教育プログラムとする。



# 日中韓における質の保証を伴った大学間交流・連携のガイドライン

(日中韓大学間交流・連携推進会議合意、平成22年12月) 『キャンパス・アジア』構想

- 「政府・大学・質保証機関・産業界等の関係主体がプログラムの実施にあたって努力すべき事項」を合意したもの(各国を拘束しない)。
- 大学の努力すべき事項
  - 適切な質保証
    - 学位プログラムや教育情報等の公表
    - 単位・成績・互換などの手続きが法令制度に従ったものであること
    - 交流大学に、「方針・内容」を明示すること
    - カリキュラムの体系的な設計(単位数・シラバス、出口管理の厳格化など)
    - 明示された人材養成目的とそれにそった組織的・体系的教育
    - シラバス方針・成績評価等について学内での共通性・体系性と交流大学での理解を配慮

- **きめ細かなプログラムの推進**
  - 交流内容等の情報の公表とフォローアップ
  - 質の保証に留意した単位取得・認定：円滑・公正・一貫性・透明性のある単位互換と成績評価
  - 欧州その他の地域での単位互換枠組みの検討(将来的)
  - それぞれの言語の活用プログラム
- **多様性・互惠性の尊重(相違の認識と相互の利益を考慮)**
- **学生支援(事前の情報提供、入学等の透明性と国際的通用性、留学生支援など)**
- **学内の協力体制(すべての教職員の積極的な態度)**
- **産業界へのお願い**
  - プログラムで培われた学生のカや経験の評価
  - インターシップへの協力

# C 国際的大学間交流・連携モデル

## 「国境を越える教育サービス」の三世代論 (Jane Knight)

- 第一世代: Student mobility
- 第二世代: Twinning/franchise programs, joint/double degree programs, branch campus programs(162), academic partnerships and networks
- 第三世代: Regional education hubs(Hong Kong, Botswana), gateways(Japan), free zones, international education cities(Qatar), hot spots, global learning cities(Singapore) , knowledge village(UAE)

## 多元的な国際的・大学間交流・連携(二宮)

- 2カ国2大学(バイ) vs. 3カ国3大学以上(マルチ)の交流・連携
- Regional vs. Internationalネットワーク  
地域型: 欧州(エラスムス)・アジア・アフリカ・LA  
＜参考＞アジア型大学間交流・連携ネットワーク
- Non-degree vs. Degree プログラム

## <参考>アジア型大学間交流・連携ネットワーク

- **UMAP(University Mobility in Asia and the Pacific)**
  - UCTSを開発(1999年頃)
  - Joint Study Programsを試行
  - UMAP Students On Line (USCO)を開発・試行
- APAIE(Asia-Pacific Association of International Education)  
(注:EAIEやNAFSAに相当する団体)
- APRU(Association of Pacific Rim University)
- AEARU(Association of East Asian Research Universities)
- **AUN(ASEAN University Network)(10カ国22大学間連携)**
  - ACTSを開発(2009年)
- **MIT(Malaysia/Indonesia/Thailand)(農業・言語・観光・国際ビジネスなど)(UCTS利用)**
- **SAU(South Asian University : SAARC)(インド中心)**

(参考:杉村美紀「高等教育の地域連携にみる国際教育の比較研究と課題」(日本比較教育学会第47回大会発表レジュメ、2011年6月26日)

## Non-degreeプログラム

- 語学研修型プログラム
- サマープログラム
- インターンシップや国際サービスプログラム
- 短期交換留学プログラム（必要に応じて単位認定・互換）

# Degreeプログラム

## ●ホーム大学の学位取得プログラム

- 交流大学の既存のプログラムの履修と単位互換協定と単位互換・認定と卒業判定(授業料は徴収又は不徴収)(ホーム大学の学位取得)
- ジョイントスタディー・シングルディグリープログラム(学位は一つ)

## ●Twinningプログラム・リンケージプログラム

- 単位(ホーム大学で取得)の認定・互換協定(授業料は徴収)
- ホスト大学に在籍・学位取得(留学期間の短縮とコスト負担の軽減)
- 帰国後のホスト大学での扱いは不明(当事者問題)

## ●ダブル/デュアル・ディグリープログラム

- 双方の大学の学位(同系列の学問分野)を取得するプログラム



## Degreeプログラム(続き)

- **Collaborative Degreesプログラム**(ダブルディグリーの変形)
  - 二つの大学で異なる学問分野の学位(法学と医学)を取得するプログラム ・期間は少し長くなる
- **Consecutive Degreesプログラム**(2大学間交流の活用による二つの学位取得)
  - 学士・修士学位取得・修士・博士学位取得 ・一つの学位期間より長いが二つの学位期間より短い学位)

## Degreeプログラム(続き)

- ジョイント・ディグリー プログラム
  - プログラムの共同開発・共同管理と一つの学位の共同授与
  - 学生の募集・選抜・在籍管理・プログラム管理・学位管理の調整
  - 各国政府の政策の問題(共同署名による一枚の学位記)
  - Diploma Supplement/Certificateの問題

# ＜ジョイントディグリー開発の経験＞

## 持続可能な開発に関する国際ジョイント修士プログラム(2年)

### Consortium (Joint Master Program for Sustainability)

#### ジョイント学位を出す大学

グラーツ大学 (奥)  
ライプチヒ大学 (独)  
ベニス大学 (伊)

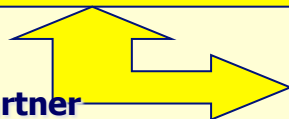
(新規学生の国際募集)

#### ダブル学位を出す大学(当時)

ユトレヒト大学 (蘭)

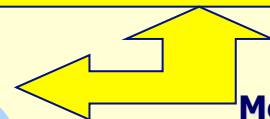


Mobility Partner



海外での必修セメスターに  
専門トラックを提供する大学

バーゼル大学 (瑞)  
広島大学 (日本)



Mobility Partner



プログラム学生の流れ  
交換留学生の流れ

# Erasmus Mundus Master Journalism and Media within Globalisation プログラム(2005～)事例

- Coordinating 大学
  - Aarhus 大学(デンマーク)
- Partners大学
  - Danish School of Journalism
  - Amsterdam大学(オランダ)
  - Hamburg大学(ドイツ)
  - Swansea大学(UK)
  - City University(UK)
- Associate Partners大学(USA・オーストラリア・チリ)
  - UC Berkeley, University of Technology Sydney, Pontificia Universidad Catholica Chile
- 学位
  - Double Master's Degree(学生が在籍・留学した大学から授与される)
- 単位(修了要件)
  - 120ECTS
- Accreditation: 独立したプログラムとしてオランダとドイツで認証が必要(2010～)・UKではAuditの対象

# European Teacher Education for Primary Schoolsプログラム の事例

- Coordinating 大学
  - University College of Zealand(デンマーク)
- Partners大学
  - Stenden University of Applied Science(オランダ)
  - Linnaeus大学(スウェーデン)
  - Buskerud University College(ノルウェー)
- Associate Partners大学
  - Charles University(チェコ), Anadolu University(トルコ)
- 学位
  - Joint Bachelor's Degree
- 単位(修了要件)
  - 240ECTS
- Accreditation:
  - 独立したプログラムとしてオランダで認証・認可が必要(2010～)
  - スウェーデン、デンマークでも新プログラムとして認証・認可が必要
  - ノルウェーでは既設のUniversity Collegeとしてプログラム提供が可能

## <参考>中国の国際連携型ジョイント・ダブル学位の事例

- 中国(北京大学国際関係学院の事例)
  - Double Master Program in International Affairs(2005-)  
(London School of Economics)
  - Double Master in International Relations and Sustainable Development(2009-)(ノパリ政治学院)
- 中国精華大学生産工学部の事例
  - International Joint Master Program (2001-)(アーヘン工科大学)

(出典:黒田千晴「中国の高等教育における国際化の動向—英語による学位プログラムの実施状況を中心に」(日本比較教育学会第47回大会発表レジュメ、2011年6月26日)

# D 質の保証と大学間交流・連携における課題

—ジョイント／ダブルディグリー・プログラム—

## ジョイント／ダブル・ディグリーの課題(欧州の動向)

- 欧州高等教育圏におけるトップアジェンダ。ジョイントプログラムは今や最も重要で複雑な課題でもある。
- 欧州で2500件のジョイントプログラム(拡大傾向)
- 質の保証が担保されないプログラムに登録学生はいないことが判明(ECA調査)
- 61%の大学が海外の大学とのジョイントプログラムを実施(EUA 2010調査)・その大半が第二期目に入っている
- プログラムの認証をどのように行うかが最大の関心事(質保証)
- ジョイントアクレディテーションについての合意が求められる
- 質保証の観点から認証評価すべき観点・項目についてのコンセンサスをどうするか(各国の制度の中で認証評価を受けるべき)
- Diploma Supplementこそが、重要な役割を果たす(認証評価)
- ジョイントプログラムの学位(award)は、“single, joint, multiple, or double degrees”である

(注) ECA(European Council for Accreditation)

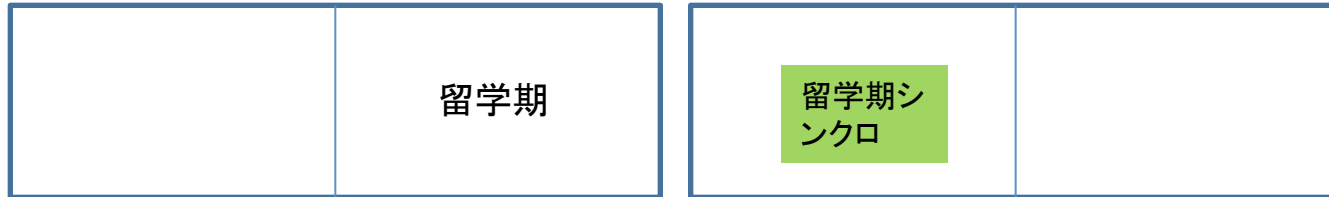


## アジアにおける学年暦の調整 — 日中韓大学間交流 —

- 韓国3月、日本4月、中国9月
- セメスター制度・集中プログラムの活用は？
- ホーム大学（学生を派遣する大学）の責任で調整する？
- ホスト大学は学年暦でプログラムを提供？
- 各国は入学時期を秋季に調整できるかどうか（中国が9月入学であることを考慮）、又は中国が春季学期入学を弾力化することができるか？あるいはその他の解決策は？

## 学年暦調整の問題(続き)

- 韓国(3月)



- 日本(4月)



- 中国(9月)



# 学年暦調整の問題(続き)

## —アジアのMITプロジェクト(第1期)の学生交流形態—

マレーシア人・タイ人学生(3月～6月)

インドネシア人・マレーシア人学生(6月～9月)

	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	Jun.	Jul.	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.
インドネシア	Yellow	Blue	Blue	Blue	Blue	White	White	White	Yellow	Yellow	Yellow	Yellow
タイ	Yellow	Yellow	White	White	White	Blue	Blue	Blue	Blue	White	Yellow	Yellow
マレーシア	White	Yellow	Yellow	Yellow	Yellow	Yellow	White	White	Blue	Blue	Blue	Blue

タイ人学生(6月～9月)

インドネシア人学生(8月～12月)

青: 第1学期 黄色: 第2学期

- 25人ずつで2010年(第1期)には計150名の交流を予定していたが、  
実際、2010年の総数は、23大学から108名。

(出典: 秋庭裕子「ボローニアプロセスのアジア高等教育へのインパクト」(日本比較教育学会発表資料、2011年6月25日)

## ＜参考＞ASEAN+3 の国々における学年暦

	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	Jun.	Jul.	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	
Japan													
Korea													
China													
Indonesia													
Lao PDR													
Vietnam													
Brunei													
Singapore													
Thailand													
Thailand Philippines													
Cambodia													
Myanmar													
Malaysia													

# アジアにおける単位互換スキーム —ACTSとUCTS—

	ACTS	UCTS
正式名	ASEAN Credit Transfer Scheme	UMAP Credit Transfer Scheme
目的	ASEAN域内における学生交流の促進	UMAPメンバー国/地域における学生交流の促進
設立組織	ASEAN 大学ネットワークとSEAMEO	アジア太平洋大学交流機構 (University Mobility in Asia and Pacific: UMAP)
対象機関	ASEAN10か国の22大学 (ASEAN大学連合のメンバー大学)	20のUMAPメンバー国・地域の大学
単位数の計算方法	学習時間 (student workload) 1単位が、1セメスターにおける25～30時間の学習量	学習時間 (contact hours/student workload)は問わない(各国の制度)
成績の換算方法	各国・大学の単位・成績制度を尊重するため、留学先の大学の成績をそのまま採用する⇒そのため、単位互換に対し、相互にコース内容の透過性、質の保証に関する事前の話し合いが不可欠となる。	単位換算表を利用する。 標準換算単位は、1学期30単位点(セメスター制の場合)で換算

# —日中韓大学間交流における単位互換と成績評価の問題—

## • 単位互換のスキーム

- ECTS (年間60ECTSポイント基準・成績相対評価・ワークロードベース)
  - $124\text{単位}/4\text{年} = 31\text{単位}$      •  $60\text{ポイント}/31\text{単位} = 1.9\text{ECTSポイント}$  (約2ポイント)
  - 4年課程240単位ポイント、3年課程180単位ポイント、2年課程120単位ポイント
  - コンタクトアワー(授業時数)とワークロード(学習総時間数)の違い
- UCTS (年間60UCTSポイント・成績は緩やか)
- ACTS (ECTS方式の採用)
- SEMEO (東南アジア諸国連合) (UCTS方式を援用)

## • 日中韓の単位制度と互換方式の開発

- 日本4年124単位・修士2年30単位
- 韓国4年140単位・修士24単位
- 中国は4年大学毎・修士2年大学毎(大学で異なる)
- これを前提に互換方式を開発できるか(ECTS方式に準じたもの?)

# アジア単位互換方式 (広島大学堀田泰司氏の提案)

## ヨーロッパとアジアの互換方式 (案)

	ASIA (新互換方式)	EUROPE
学士課程年限	4年	3年
卒業要件単位数	120-140単位ポイント	180 ECTSポイント
年間取得標準単位数	30-35単位ポイント	60 ECTSポイント
学生のワークロード時間数/週	40-50時間	25-30時間
学生の年間ワークロード時間数	1200-1750時間	1500-1800時間
卒業までのワークロード総時間数	4800-7000時間	4500-5400時間
アジアとECTSの互換モデル	1 (新) credit	1.5~1.6 ECTS
その単位に必要なワークロード標準	40-50時間	40-48時間

# まとめ

1. 国際的ネットワークと日本の大学のリーダーシップと熱意
2. 大学教育(人材育成)・学生のためのネットワーク
3. 大学の国際展開の理念と戦略性の重要性(目的と手段)
  1. 大学の機能別分化政策の中での大学の方針・理念(人材育成)
  2. 国際化・国際展開等の国際戦略の策定と実施
  3. 実現可能性と持続可能性
4. アジア(多様性)の大学間のコミュニケーションの難しさ
  1. 各国の枠組みとアジア型標準化(アジアの中の対話)
  2. アジアと欧米との対話
  3. アジアにおける国際連携プログラムの質保証と認証・認可の検討
  4. 日本の大学のポジショニング
5. 情報公開こそが最も重要(市場における質保証)
6. 国の政策・制度改革(大学の国際競争力強化)



# おわり

ご清聴ありがとうございました。

(ご質問・ご意見は下記のメールのアドレスにどうぞ)

[animiya@ouj.ac.jp](mailto:animiya@ouj.ac.jp)